

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 22 年 7 月 29 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 15

場 所 合同庁舎 4 号館 1214 会議室

出席者 津村政務官、相澤議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、中鉢議員、藤田統括官、
梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官

議事概要

議題 1 . 優先度判定等の進め方について

< 須藤参事官説明 >

相澤議員 それでは、資料の 1 の 1 ページ目に戻っていただきまして、優先度判定の進め方についてであります。段階から分けますと、全体ヒアリングがございますので、全体ヒアリングについては、前回の議論でほぼご理解が得られたのではないかと思います。まず 1 . の全体ヒアリングで赤のところ、修正された部分で、そこに目を通していただいて、全体ヒアリングがこれでよろしいかどうかをご確認いただきたいと思います。いかがでしょうか。

それでは、その次の 2 ページの 2 . になりますが、個別施策についての優先度判定等があります。ここにつきましても全般に書かれているところはほぼご理解が得られている内容ではないかと思います。(1) と (2)、(2) は新規課題であります。ここもずっと目を通していただいて、そこで (3) のところもほぼご理解が得られているのではないかと思います。議論は 5 ページ目の 3 . にあります優先度判定等のプロセス、このところに新たに第一線の若手研究者の意見を聞くというところが入ってまいります。この部分が大きな議論ではなからうかと思います。そこで、5 ページの上の部分のところまでは、特段のご指摘があるかどうかお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

奥村議員 言葉の使い方ですが、3 ページの注の 5 番目、対象となる云々のところですが、具体的な資金等の規模、これはやはりきちんと言葉として入れたほうがよろしいのではないのでしょうか。

相澤議員 それでは、適切な場所に明記してください。

須藤参事官 はい。

相澤議員 それでは、先ほどの 5 ページの 3 . 優先度判定等のプロセスについてであります。前回、この場の議論で、若手研究者の意見の聴取については、1 つの対象として、最先端次世代研究開発支援プログラムのヒアリングの対象者に焦点を合わせて実施したらどうかということで、それは 1 つの考え方だということで議論が進んだわけですが、資料 1 の別紙にありますようなところで、こういうような問題点もあるということです。最先端次世代研究開発支援プログラムのヒアリング対象者をここで利用するということはなかなか難しいかなというところがございますが、まずこの資料 1 の別紙についての

コメントについて、ご意見いただければと思います。

白石議員 もう、フィージブルでないのであれば、フィージブルではないのでほかの方法を考えるしかないと思います。

相澤議員 そういたしますとこれは適切ではないだろうという判断ということで、この案は取り扱わないということによろしいですか。ただいまの別紙の最後のところにある科研費関係というところ、ここについては今この内容について例えばこういうことが考えられるとか、そういうことは出ていますか。

須藤参事官 いろいろ問題点になるか少し整理しなければいけないと思っておりますが、今事務局のほうで考えておりますのは、例えばでございますけれども、科研費の中で若手研究のSというものとAというものがございます。若手研究のSというのは、23年度新規では行っておらないのですけれども、22年度から継続で行っておられる方がおられますので、この若手研究のSというのは年齢的にも42歳以下ということでございますので、若手の方ということでございます。その方とそれは108件で、若干母数としては少ないので、それに加えて、若手研究のAというものがございまして、これにつきましては新規の方が343件ございまして、新規と継続等を合わせますと938件ということでございますので、これにつきましては、こういう方を活用するということがあるのかなと思っております。

この若手研究のAの方は年齢としては39歳以下ということでございます。そういう意味で言いますと、若手ということ、あるいはこのSとかAということでございますけれども、ちゃんと科研費に選ばれているということで、まさに若手でありかつ第一線と言えるのではないかと考えてございますが、その場合に、例えば、108件と若手研究、新規と継続を合わせて938件おられますので、合計で考えるのか、あるいはそこら辺、どういうふうに母集団を考えるかというところが、少しご議論があるかと思っております。

あるいは、先ほどご指摘させていただきました最先端次世代でご指摘されました1から4のような問題点というものが、この科研費の場合には全く当てはまらないのかどうかということも、少なくともその目的外使用とか、公表情報を使って、こういうアプローチができますので、そういうところについて、1とか2、3についてはそういう問題点はクリアになるのではないかと考えてございますけれども、いずれにしてもちゃんと最終的に問題点がないかを確認させていただいて、次回お諮りさせていただければと考えているところでございます。

相澤議員 問題点となるかどうかということをもまず検討してということでございますが、この際、1つの可能性としては、こういうような対象者がちょうど規模的にも我々が必要とする数がありそうなので、1つの対象とすることはいいのではないかとということですが、いろいろと検討してもらうときに、こういう点については、どうかというようなことのご指摘はありますでしょうか。

それでは、最先端のほうで、危惧された問題の指摘のところが同じように今回のこういう対象の場合にもあり得るということで、それを整理して、この次に提示していただくということですね。そういう形でお願いしたいと思います。

それでは、5ページの のその他留意事項について、いかがでしょうか。

奥村議員 留意事項の1番目の末尾の文言ですけれども、これら予算は基本的に評価対象にしないとはどういうメッセージですか。そもそも科学・技術関係予算として出してないので、対象外なわけですよ。改めてこういうことを書く意味はどういうところにあるのですか。

須藤参事官 これは優先度判定というよりは直接関係ない話ですが、基本的に科学・技術関係施策というものについて例年統計をとってございまして、その範囲については、優先度判定の対象以外のものも含めますということを例年させていただいていますので、それをまた確認的に書かせていただいているというところでございます。

更田企画官 そもそも25兆円という目標がございまして…。

奥村議員 わかりました。

相澤議員 科学技術関係予算といっているところの範囲には入るけれども、意見を述べる対象とはしない。そういう切り口という意味ですね。

須藤参事官 これまでそうさせていただいていた。引き続きそういう対応をさせていただきたいということで書かせていただいているところでございます。

奥村議員 下の予算編成への反映のところで、赤字で書かれている最後の文章ですが、これは予算案の編成後に反映状況を確認し、ということまではいいのですが、その結果を次年度の資源配分方針、優先度判定と書かれ、PDCAサイクルを徹底すると書かれているのですが、具体的にどういう作業としてこのPDCAサイクルを徹底するのか。作業のイメージが湧かないのですけれども。

須藤参事官 まず、今、事務局的に考えておりますのは、まずは優先度判定等をしたものについて具体的にどのような取扱になったか。それはなぜなのかということについてはまず各府省にお聞きして、なおかつ各府省からも今回の23年度に向けた優先度判定等でこういところが実はというお話もあるかと思しますので、そういうものをまずヒアリングして、それを活用すべきものは来年に活用していくということが1点ございます。

それともう1つは、先生方がこういう趣旨で申し上げていた優先度判定でのコメントについて、それがあある意味、もしかしたら各府省にそうになっていなかったとか、そういうこともあると思います。そういうことを基本的に次年度以降に活かしていくということを考えてございます。

奥村議員 同じところの関係府省の意味なのですが、この中に財務当局は入るのですか。入らないのですか。

須藤参事官 財務省はあくまでも調整だけなので、基本的に各府省、財務省だけと呼ぶということはないと思っていますけれども、今年1月にやらせていただいたような形で、財務省の方にも来ていただくということ。ほかの役所プラス財務省という形で来ていただくということを想定してございます。

奥村議員 財務当局と連携の上と書いてあるのではないですか、その上の文章には。ですから、起承転結で言えば、その下にも当然財務当局も入るというように読み取れるのですが、きちんと明記したほうがいいのではないですか。

須藤参事官 十分入っているつもりなのですが、やはり明記したほうがいいということですね。わかりました。

相澤議員 上と言いますのは、2.の最初の・のところの各府省、これはこのままでよろしいのですか。

奥村議員 これは要求段階の話でしょう。

須藤参事官 ご参考までに申し上げますと、財務省はあくまでも調整しているだけで、最終的な判断、予算は各府省のほうで考えておられるという言い方をされておられますので、ここはかえって初めのところ、財務省というのが入ると、財務省がある意味、各府省の具体的な予算にまで、最終的な判断はあくまでも財務省のご発言ですけれども、各府省のご判断だというスタンスだとお書きしていますので、ここはこれでよろしいのではないか

と思っております。

相澤議員　そこで赤字の２行目の関係府省は要求各省とそれから財務省等を含めて、ここは意見交換を行うところだから、ここは財務省も入ると。

須藤参事官　実際に最終判断は各府省ですけれども、それにあたっていろいろと財務省もいろいろ調整されているわけですから、そういうことでのご意見を伺うということあるのかなと思います。まさに今年１月に文部科学省と財務省に来ていただいて、次回以降、政務官に来ていただくかわかりませんが、そういう形を……。

相澤議員　その意味での意見交換ですか。

須藤参事官　そういうことでございます。

相澤議員　それでは、ちょっと適切な表現にそこは修正してください。

そういたしましたと、全体を通しまして、５ページの優先度判定等のプロセスについては特に第一線の若手研究者の取扱についてのことを次回もう一度議論するというのにいたしまして、そのほかの部分については基本的にはご了解が得られたというふうにさせていただきますが、よろしいでしょうか。

中鉢議員　議論を聞かせていただいて、気がついたことなのですけれども、５ページの１．で、「各府省は」、とありますが、これは直接的な科学・技術施策も各府省が行うということになりますと、「直接的」とあとは何がありますか。これは後段のことは「間接的」という意味合いですか。それは各府省が行ってよろしいという、優先的にしないというように言っているのですか。それとも直接的な科学・技術施策は積極的に位置づけるのですか、位置づけないのですか。文章の問題ですけれども。Not onlyと言っているのですね、「直接的」は。but also、両方、bothで積極的にやりなさいとおっしゃっているのですか、文章的に。

須藤参事官　そういうことでございます。

中鉢議員　そうすると、直接的科学・技術施策というのはどういうものですか。１例を言うと。

須藤参事官　１例を言いますとまさに研究開発を実際にやっているものとか、あるいは産学連携でございます。

中鉢議員　その産学連携のものについては、優先度判定はしませんと。

須藤参事官　いえ、直接的なものについては優先度判定をさせていただくのですけれども、それに加えまして、科学・技術の新たな事業の取組とか、必ずしも科学技術政策だけの範疇に入らないようなものについてもここでは位置づけさせていただいて、積極的に位置づけていただき、科学・技術と関係したことに位置づけていただきたい、そういう趣旨でございます。

中鉢議員　それであるならば、これは日本語的に、「直接的科学技術政策だけでなく」、というのは取ったほうがいいですね。これ、日本語的に言ったら両方になりますので。

須藤参事官　わかりました。直接的な科学・技術政策だけでなく、というのを削除いたしまして、２行目のところ、取組などについてもとか、そういうようにするということですね。

中鉢議員　もし、そういう趣旨ならそのほうがいいのではないのでしょうか。

須藤参事官　わかりました。

相澤議員　それでは、ただいまの点を修正してください。それでは、先ほどのとおり優先度判定等のプロセスについての未検討の部分以外については、基本的にご了解が得られたとさせていただきます。

中鉢議員　質問ですけれども、わかったら教えてほしいのですが、優先度判定のプロセスのところ、パブコメと若手のところで先ほどご議論がありましたけれども、それは難しいと、

それはそれでいいと思いますけれども、パブコメで若手かどうかというのはコメントから識別できるのでしょうか。年齢が書いてあるとか。

須藤参事官 前回やらせていただいたときは、年齢は書いていませんので、属性としては研究者、会社員の方とか、そのほか、そういう形に。ご自身で書かれて、年齢把握ということはありません。

中鉢議員 もしそこで年齢があると、若手の声というのは少し見えるのかなと。パブコメとしても。ここではもうパブコメと並行してということなので、参考までに確認させていただきました。

相澤議員 それでは、次回全体についての決定ができるように進めさせていただきます。

議題２．平成 23 年度科学技術振興調整費概算要求方針（案）について

（概算要求に係わる議題であるため非公開）

議題３．アクション・プランの進捗状況について

（各省と調整すべき内容を含むため非公開）

（以 上）